

# 平成29年度 第4回岡山県文化振興審議会

日時：平成30年1月31日（水）

10時～11時30分

場所：ルネスホール ワークルーム

## 1 開 会

## 2 議 事

- ・ おかやま文化振興ビジョン（2018～2027）の策定について
- ・ おかやま文化振興ビジョンの進捗状況について

## 3 その他

## 4 閉 会

## 岡山県文化振興審議会委員

任期：H28. 2. 1～H30. 1. 31

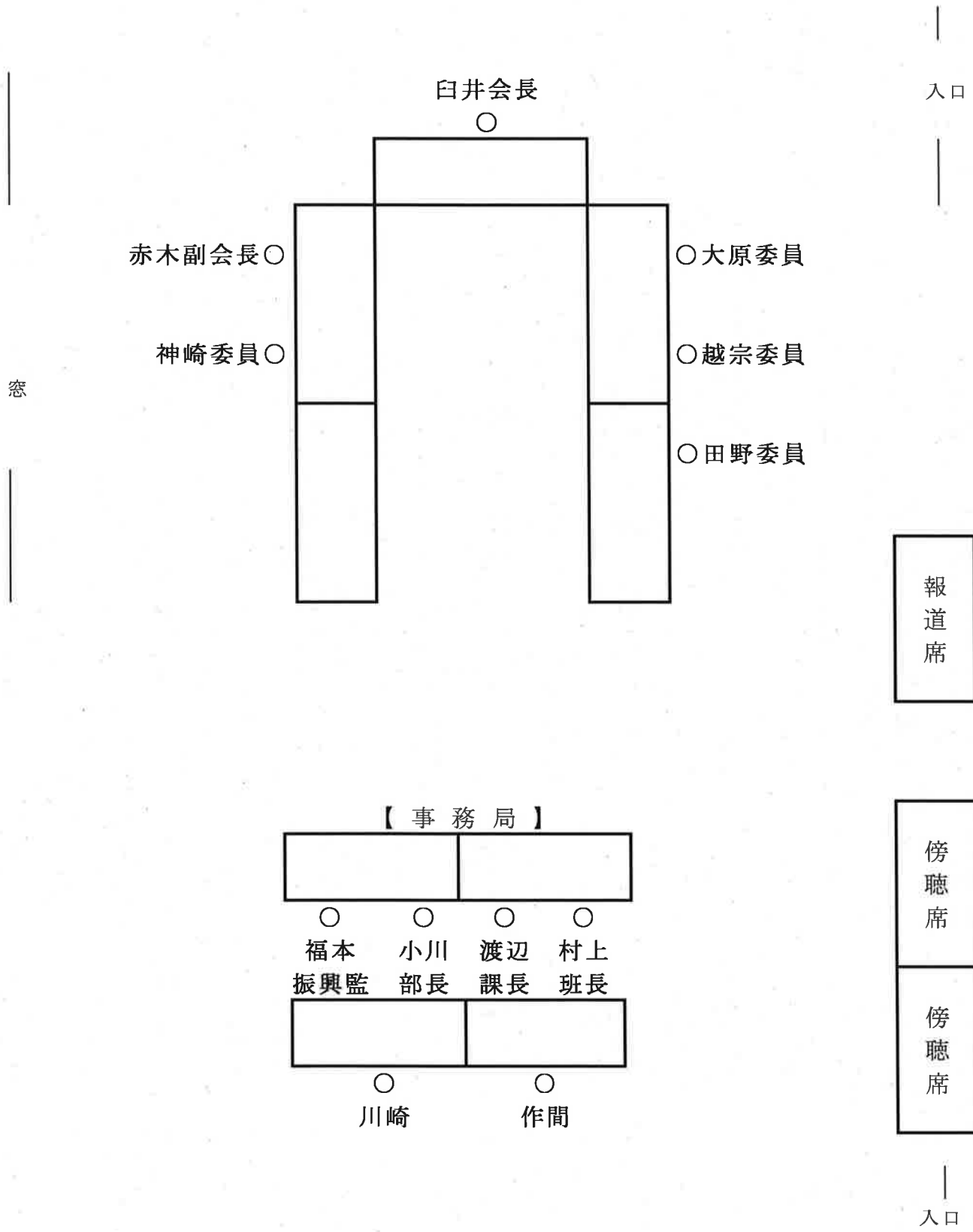
氏名	役職名
赤木 里香子	岡山大学大学院教育学研究科教授
臼井 洋輔	備前市立備前焼ミュージアム館長
大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館名誉理事長
神崎 宣武	民俗学者
越宗 孝昌	山陽新聞社取締役会長
竹内 京子	くらしき作陽大学教授音楽学部長
田野 智子	NPO法人ハートアートのリンク代表理事
林 陽舟	岡山県書道連盟会長
原田 マハ	小説家

敬称略 50音順

# 平成29年度 第4回岡山県文化振興審議会 配席図

日時：平成30年1月31日（水）10:00～11:30

場所：ルネスホール ワークルーム



## おかやま文化振興ビジョン（2018～2027）案について

おかやま文化振興ビジョン（2018～2027）素案について、おかやま県民提案制度（パブリック・コメント）に基づく県民意見の募集を実施し、寄せられた意見を踏まえて案を取りまとめた。

### 1 パブリック・コメントの状況

(1) 実施期間：平成29年11月21日(火)～12月20日(水)

(2) 件数：7件

### 2 意見等の要旨と県の考え方

意見等の要旨	県の考え方
<p><b>全般</b></p> <p>「文化芸術振興基本法」が「文化芸術基本法」に改正され、各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮することが加えられた。ビジョンに基づく施策全般にわたり、民間団体をうまく活用し、関連分野との「有機的な連携」を図っていただきたい。</p>	<p>岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、文化団体・NPO・企業・大学などと連携し、文化の持つ力を地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。</p> <p>※上記趣旨をビジョンのP7「(4)『文化の力』の充実と活用」・P21「1文化行政推進体制の充実」に記載しています。</p>
<p><b>I ビジョン策定にあたって (P3)</b></p> <p>東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの計画や予算はどのように公表するのか。文化プログラムを東京オリンピック・パラリンピック後のレガシーとして継承・発展させるためには相当の種まきとその後のフォローが必要である。</p>	<p>文化プログラムに係る事業や予算は、県や岡山県文化連盟のホームページで公表します。文化プログラムのレガシーを東京オリンピック・パラリンピック後の充実した文化活動へと継承・発展させていく仕組みづくりに努めます。</p> <p>※上記趣旨をビジョンのP7「(2)東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした文化の継承・発展」に記載しています。</p>
<p><b>II 文化振興の基本的視点</b></p> <p><b>2 県の役割 (P6)</b></p> <p>おかやま文化芸術アソシエイツは、県と文化連盟が設置している組織であることから、本文中の「岡山県文化連盟に設置した『おかやま文化芸術アソシエイツ』」は「岡山県文化連盟と設置した」がよいのではないか。</p>	<p>ご意見をいただいた記述は、「おかやま文化芸術アソシエイツ」を岡山県文化連盟内に設置しているという趣旨です。</p>

意見等の要旨	県の考え方
<p><b>V 具体的施策</b></p> <p>1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山 (1)将来の地域文化の担い手育成(P12)</p> <p>今後、現在の豊かさを維持していくためには、「将来の地域文化の担い手育成」が重要であり、「学校教育における文化活動の充実」や「子どもや若者の文化活動の充実」を一層進め、将来にわたって豊かな地域を作り上げていく力になることを期待する。</p>	<p>具体的な施策の推進に当たっては、ご意見の趣旨をできる限り反映させていきたいと考えています。</p>
<p><b>V 具体的施策</b></p> <p>1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山 (4)障害のある人の文化活動の推進(P15)</p> <p>障害のある人の文化活動の推進を文化振興ビジョンに位置づけることは意義のあることだ。福祉部門と文化部門が連携してはどうか。</p>	<p>ビジョンには記載しておりませんが、障害のある人の文化活動の推進に当たっては、福祉部門と文化部門が連携しながら取り組むこととしています。</p>
<p><b>V 具体的施策</b></p> <p>1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山 (4)障害のある人の文化活動の推進(P15)</p> <p>障害のある人の舞台芸術活動に取り組んではいかがか。</p>	<p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p><b>VII 文化振興ビジョンにおける成果指標 (P23～P27)</b></p> <p>県がコントロールできないものを目標に掲げるのはいかがか。主体的な取組のみを指標として掲げたらどうか。</p>	<p>成果指標については、県がコントロールできないものも含め、様々な観点から、文化施策にかかる成果を推し測ることが必要であると考えて設定したものです。</p>

### 3 今後のスケジュール（予定）

平成30（2018）年 1月31日 文化振興審議会（答申）  
2月～3月 決定、公表・周知

おこやま文化振興ビジョン  
(2018～2027)

岡山県

## [ 目 次 ]

I	ビジョン策定にあたって	3
1	これまでの経緯と策定の趣旨	
2	位置づけ	
3	対象範囲	
4	期 間	
II	文化振興の基本的視点	5
1	文化振興の基本的視点	
	(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重	
	(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備	
	(3) 芸術家等の育成	
	(4) 県民の協働による文化の振興	
	(5) 将来の世代への文化の継承	
2	県の役割	
III	基本目標	8
	「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」	
IV	基本方針	9
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山	
2	文化が地域の元気を生み出す岡山	
3	文化発信しながら交流を広げる岡山	
V	具体的施策	11
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山	12
	(1) 将来の地域文化の担い手育成	
	(2) 県民参加による新たな文化の創造	
	(3) 県民の文化創造活動の振興	
	(4) 障害のある人の文化活動の推進	

<b>2</b>	<b>文化が地域の元気を生み出す岡山</b>	<b>16</b>
	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	
	(2) 文化の力を活用した地域の活性化	
	(3) 地域資源としての文化の積極的な活用	
<b>3</b>	<b>文化発信しながら交流を広げる岡山</b>	<b>19</b>
	(1) 多様な文化プログラムの展開	
	(2) 文化による連携・交流の促進	
	(3) 岡山からの文化発信	
<b>VI</b>	<b>文化振興のための体制づくり</b>	<b>21</b>
	1 文化行政推進体制の充実	
	2 政策形成への民意の反映等	
<b>VII</b>	<b>文化振興ビジョンにおける成果指標</b>	<b>23</b>



# I ビジョン策定にあたって

## 1 これまでの経緯と策定の趣旨

岡山県では、平成 12（2000）年 3 月に 21 世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成 18（2006）年 3 月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成 20（2008）年 2 月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。

また、県では、平成 16（2004）年の「県立図書館」、平成 17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。

さらに、平成 22（2010）年秋に開催した「第 25 回国民文化祭・おかやま 2010」（愛称：「あつ晴れ！おかやま国文祭」）では、これまで蓄積された岡山の文化を生かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。

平成 29（2017）年度からの 4 年間の県政推進の羅針盤である「新晴れの国おかやま生き生きプラン」では、生活の質を重視し、心の豊かさを求める県民ニーズの高まりを受けて、重点戦略として「安心して豊かさが実感できる地域の創造」を掲げ、その中で、文化の振興を通じて、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指すとともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京オリンピック・パラリンピック」で表記する。）に向け、県下で文化プログラムを積極的に展開していくこととしています。

今回、こうした社会経済情勢の変化等を踏まえながら、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、東京オリンピック・パラリンピック後の文化のレガシーとして継承・発展させていくためにこのビジョンを策定するものです。

## 2 位置づけ

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第 7 条に定める「文化の振興に関する基本的な計画」としての役割を担うもので、長期的視点に立った今後の本県文化行政の施策の方向性を示すものです。

### 3 対象範囲

「文化」は様々に捉えられていますが、本ビジョンでは、岡山県文化振興基本条例に基づき、概ね次に掲げる芸術、生活文化、伝統文化などの各分野を対象としています。さらに、文化の持つ力を活用した地域づくり・国際交流・産業振興・福祉・景観などの分野における取組も含めて検討しています。

(対象とする分野)

- ◇芸術（文学・音楽・美術・書道・写真・演劇・舞踊・工芸・デザインなど）、メディア芸術（映画・漫画・アニメーション・コンピュータなどを利用した芸術など）
- ◇生活文化（茶道・華道・囲碁・将棋・民芸・郷土料理・ファッションなど）、文字・活字文化
- ◇伝統文化（地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言など）

### 4 期間

平成 30（2018）年度から平成 39（2027）年度までの 10 年間とします。

なお、5 年程度で中間見直しを行うこととします。

## Ⅱ 文化振興の基本的視点

### 1 文化振興の基本的視点

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第3条に掲げた5つの基本理念を基本的な視点として策定します。

#### (1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重

文化の創造は、芸術家のみならず、すべての人の創造活動により実現するものです。こうした人間の自由な精神に基づいた多様な創造活動は、個人の生活の質を高め、その個性や創造性を引き出す原動力になります。

こうしたことから、県民一人ひとりの自由な発想と主体的な文化活動が尊重され、すべての人が自由な発想を持って活動することにより、文化が活性化され、より豊かで特色ある創造的な地域文化が生まれるという視点を幅広く共有することが重要です。

#### (2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備

文化を創造し、享受することは、人々の生まれながらの権利です。県内どこに住んでいようと、誰もが等しく文化を創造し、享受することができる環境を整えていかななくてはなりません。

これまで、県内各地で公立文化施設等の整備が進められ、施設面では充実してきましたが、文化を享受する機会についてはまだ地域的に大きな開きがあります。

こうしたことから、文化に関する情報提供や各地域における文化を育む環境の整備を通じて、広く県民が様々な形の文化に触れ、文化の創造活動に参加できるとともに、創造性や個性を発揮しやすい環境をつくることが重要です。

#### (3) 芸術家等の育成

多様で優れた文化を創造し、継承し、発展させていくためには、文化に関する創造活動に携わる芸術家をはじめ、文化施設や文化団体で企画・研究等を行う学芸員やアートマネジメント<sup>※1</sup>担当者、文化財等の保存技術保持者や研究者、伝統芸能の伝承者などの活動と相互の連携が欠かせません。

※1 アートマネジメント：文化施設の運営や文化団体の活動、あるいは、文化関係の催しに対し効果的で大きな成果をあげるための活動の総称。具体的には、企画制作、管理関係業務、広報活動、持続的に活動するための組織経営などが含まれます。

こうしたことから、これらの人々が活動成果を発表する機会の確保に加えて、文化に関する幅広い人材の育成・活用や資質向上のための研修等の充実を図ることが重要です。

#### **(4) 県民の協働による文化の振興**

文化は、地域の魅力を創造し、豊かな地域づくりの礎になるとともに、人々に精神的な豊かさや感動を与え、生きる力と喜びをもたらすなど、様々な面で私たちの生活を支えているものです。

文化の持つこのような力を人づくりや地域づくり、さらには地域産業の活性化に生かしていくことが必要です。

また、文化活動を行うNPO等の増加、大学と地域の連携、文化活動を支援する企業のメセナ活動など、行政以外の分野でも様々な取組が広がりつつあります。

こうしたことから、県民・文化団体・NPO・企業・大学など、様々な主体と行政が、目標を共有しながら、その目標に向かって、ともに力を合わせて活動する文化の振興を進めていくことが重要です。

#### **(5) 将来の世代への文化の継承**

地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言などの伝統文化は、人々の暮らしや生き方を支える基盤であるとともに、全国・世界に誇りうる貴重な財産です。また、これらの伝統文化は県民の誇りと心のよりどころであり、県民の活力を高め、新しい価値を創造する源であるとともに、将来の地域発展の基礎となるものです。

こうしたことから、県内各地の個性ある伝統文化や埋もれた文化資源を掘り起こし、県民共有の財産として尊重し、将来の世代に伝えていくことが重要です。

## **2 県の役割**

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、文化が育まれる風土づくりを醸成し、文化活動の成果がよりよい地域づくりに生かされるよう努めていくことです。

このため、岡山県文化連盟(公益社団法人岡山県文化連盟、以下同じ。)に設置した

「おかやま文化芸術アソシエイツ」<sup>※2</sup>の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

#### **(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり**

---

多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりや、県民が文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

#### **(2) 東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした文化の継承・発展**

---

東京オリンピック・パラリンピックに向け、これまで蓄積されてきた岡山の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう文化プログラムを展開するとともに、そのレガシーを東京オリンピック・パラリンピック後の充実した文化活動へと継承・発展させていく仕組みづくりに努めます。

#### **(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成**

---

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化を体験できる機会を充実するとともに、若手芸術家の育成など、未来を創り、拓いていく担い手の育成に努めます。

#### **(4) 「文化の力」の充実と活用**

---

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着眼し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。

#### **(5) 文化ネットワークの形成**

---

文化の持つ力を高め、文化活動を活発化させるため、人・もの・地域・情報を結びつける仕組みづくりに努めます。

---

※2 おかやま文化芸術アソシエイツ：岡山県と岡山県文化連盟が、文化連盟内へ設置している組織であり、県内の文化団体等の活動支援やコーディネート、東京オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの認証・参画促進、文化事業に関わるあらゆる相談窓口業務等を行うことを目的としている。

### Ⅲ 基本目標

#### 「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

岡山県は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古代吉備からの長い歴史を通じて、人・もの・情報が活発に行き交う水陸の交通の要衝として栄えてきました。

そうした中で、先人が育み守り伝えてきた独自の文化と、時代ごとに新たに創造された文化とが交流し、融合する中で、岡山の文化を形成してきました。

今また、県民の自主的な文化活動や幅広い交流を図ることで、新しい文化が生まれようとしています。

東京オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典のみならず、文化の祭典でもあることから、大会の開催に向け、引き続き、県民が郷土の歴史や伝統文化に親しむとともに、多様な創造活動に自ら参加し、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指していくことが大切です。

そして、東京オリンピック・パラリンピック開催後も、岡山の文化の再認識と継承・発展、次世代育成と新たな文化の創造、岡山の文化の情報発信と様々な交流といった岡山ならではの文化のレガシーを生み出していくことが必要です。

県民一人ひとりが岡山の文化に愛着心と誇りを持ち、県民の協働によって岡山の文化を継承・創造・発信しながら発展させていきます。そして、その豊かで特色ある岡山の文化が人々の心の豊かさや活力を一層向上させます。このような好循環が県民の自由な発想と活発な文化活動によって生まれ、岡山の文化の質がさらに高まっていくことを目指します。

## IV 基本方針

### 1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

県民一人ひとりが文化を創造し、楽しみ、感動する機会を平等に得られることが大切です。そのためには、あらゆる県民が居住地域に関わらず、創作活動に参加したり、鑑賞体験できる機会を充実させることが必要です。

また、若手芸術家への支援や文化サポーター<sup>※3</sup>の育成など、文化を創造し、支える人材の育成を図る必要があります。

このため、多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、各地域で文化の伝承・創造活動に参加できる環境づくりや、文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

### 2 文化が地域の元気を生み出す岡山

文化の持つ力は、県民の自信と活力を高め、新しい価値を創造する源であり、豊かな地域づくりに欠かすことができません。

また、地域固有の歴史と風土の中で育まれてきた伝統文化や、歴史的なまちなみ、集落や都市の景観、自然環境等は、県民の誇りと心のよりどころであり県民共有の財産です。

文化の持つ力でこれらの地域の魅力や価値をさらに掘り起こし、地域の特色や魅力を生かした取組を展開することで、観光や地域産業の活性化など、豊かな地域づくりにも文化の力を生かしていきます。

### 3 文化発信しながら交流を広げる岡山

古くから交通の結節点となって栄えてきた岡山の歴史が語るように、人・もの・情報が活発に行き交う時代と地域にあってこそ多様な文化が融合し、向上し、新しい文化が育まれます。

また、地域固有の文化は、人々の心を結びつけ、相互理解と連携を深める上で重要な役割を果たすとともに、郷土への愛着心を育みます。

このようなことから、それぞれの分野で活動する文化団体等がお互いに幅広い交流を行い、連携を深められるよう努めるとともに、岡山の魅力を伝える文化の積極的な発信

※3 文化サポーター：文化活動に主体的に参画する人や、文化イベントの支援を行うボランティアなど、文化活動に関与する県民を広く総称するものです。文化サポーターを育成・支援し、相互のネットワークを構築する組織として、岡山県文化連盟内に「おかやま文化芸術アソシエイツ」が設置されています。

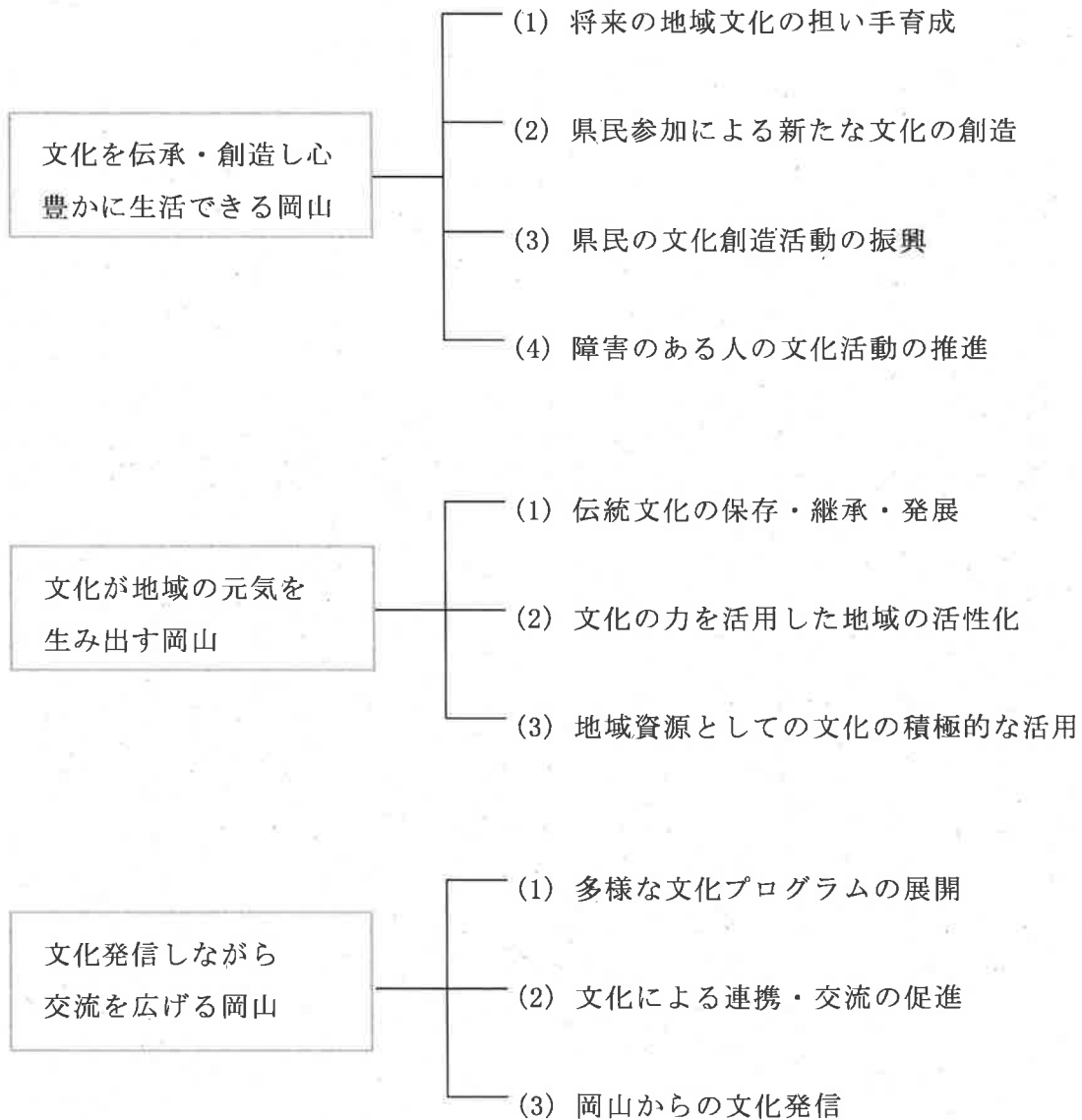
と多様な文化の受信に取り組みます。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向け、文化を通じた機運醸成を図るため、岡山の魅力あふれる文化を世界の人々に発信するとともに、創出した次世代に誇れる文化のレガシーを継承・発展させるよう努めていきます。



## V 具体的施策

### (施策体系)



# 1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

## (1) 将来の地域文化の担い手育成

学校や地域において、子どもや若者が本物の文化に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を充実することにより、次世代の文化の担い手となる、心豊かな子どもや若者の育成を図ります。

(重点施策)

### ○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

岡山ゆかりの人物をわかりやすく紹介するガイドブックや文化財めぐりに便利なマップ等の作成、文化財や文化財に関する情報の整理・充実など、子どもや若者が、郷土の歴史や有形・無形の文化財に親しむ機会の充実を図ります。

### ○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習の時間」など様々な学習機会を活用して、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業や文化部活動の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

### ○子どもや若者の文化活動の充実

子どもや若者を対象とした文化公演等への支援を行うとともに、民間団体等との連携などにより文化活動の場や機会の充実を図ります。また、学校等と連携し、県立美術館や県立博物館などの文化施設によるアウトリーチ活動<sup>※4</sup>の充実を図るなど、子どもたちの文化に対する感性を育む取組を促進します。

### ○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもたちに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充

※4 アウトリーチ活動：アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。日頃、文化に触れる機会が少ない人々へ文化施設などが館外で行う普及活動をいいます。

実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで地域に誇りと愛着心を持つことにつながるような研修機会の充実を図ります。

#### ○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

県立文化施設と県内の芸術系専門学科を有する高校や大学が、部活動、職場実習、出前講座などによる連携を通じ、新たな文化活動の創出、ネットワークの構築を図ります。

### (2) 県民参加による新たな文化の創造

県民による文化活動の充実を図るため、文化活動を担う人材及び団体等の育成及び活用に努めます。また、次世代を担う新進芸術家が活動成果を発表する機会の充実に努めます。

(重点施策)

#### ○岡山県文化連盟の機能強化

文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する中間支援組織「おかやま文化芸術アソシエイツ」の機能の充実、強化を図ります。

#### ○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、岡山県郷土文化財団(公益財団法人岡山県郷土文化財団、以下同じ。)等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップを図るためのノウハウや、国や民間団体の各種助成制度についての情報提供等に努めます。

#### ○アートマネジメントの推進

文化施設・文化団体の担当者、舞台技術者、学芸員などを対象に、企画制作、広報等資質向上のための研修や交流機会の充実を図ります。

また、地域における文化活動を支えていけるよう、企画、制作、演出などができる人材を育成するとともに、その人材を民間団体、NPO等が有効に活用できるような仕組みを構築します。

#### ○文化サポーターの育成

県内各地で展開される、分野や世代を超えた活発な文化活動を様々な形でサポートする人材を育成、活用し、今後の充実した文化活動へと結びつけます。

## ○芸術家等の創造活動への支援

地元の芸術家等による創造活動を支援するため、市町村や地域住民と協力しながら、おかやま県民文化祭をはじめとした活動の場の充実に努めます。

また、次の世代を担う若手芸術家を育成するため、新進美術家を対象とした岡山県新進美術家育成「I氏賞」を活用するなど本県ゆかりの若手芸術家の発表の場を提供するよう努めます。

## (3) 県民の文化創造活動の振興

---

広く県民が、身近なところで文化についての理解及び関心を高め、質の高い文化を鑑賞するとともに、文化の創造活動に参加できるような環境の整備を進め、優れた地域文化の形成に努めます。

(重点施策)

### ○文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともに、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

また、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実を図るため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

### ○質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

広く県民が優れた文化に親しむことができるよう、県立美術館、県立博物館においては、郷土ゆかりの資料の収集に努め、充実した展示を行うとともに、多くの人が文化に気軽に親しみ鑑賞できる企画展を開催します。

また、国や公益法人等が行う支援制度を活用して、県内の文化施設において国内外の質の高い美術や舞台芸術等を鑑賞できる機会の充実を図ります。

さらに、民間団体、NPO等が行う文化の公演等への支援を通じて鑑賞できる機会の充実に努めます。

#### ○文化に関する情報提供の充実

文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報をメディア等を用いて広く県民に対し発信します。

また、インターネットを活用し県民や文化関係者が文化情報の発信や入手を容易にできるようホームページ「岡山文化情報」の内容を充実させるとともに、より使いやすいものになるよう努めます。

#### ○おかやま県民文化祭の充実

県民の文化への関心や、県内各地の文化活動の取組を根付かせ、伝統ある地域文化や新たに創造された特色ある文化を県民が身近に感じられる機会を提供するため、県民との協働によるおかやま県民文化祭の充実に努めます。

### (4) 障害のある人の文化活動の推進

---

障害のある人が文化に親しむことは、交流の拡大・生きがい・生活の充実等につながるものです。障害のある人が、文化活動を行うことのできる環境づくりに取り組みます。

また、今まで文化活動を行うきっかけがなかった障害のある人にも、文化に触れる機会を提供するよう取組を進めます。

(重点施策)

#### ○障害のある人の文化活動の推進

障害のある人が、自身の文化活動を発表する場や、芸術作品等を鑑賞するなど文化に親しむ機会の充実を図り、障害の有無に関わらず文化に親しめる環境づくりに努めます。

#### ○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた工夫・配慮が提供されるように努めます。

## 2 文化が地域の元気を生み出す岡山

### (1) 伝統文化の保存・継承・発展

岡山県には、「岡山後楽園」「吉備津神社」「旧閑谷学校」などの文化財や、「備前焼」「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」「白石踊」「横仙歌舞伎」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備以来、各時代に多彩な文化を育んできた岡山県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

(重点施策)

#### ○民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用

地域の祭り、民俗芸能、伝統行事、伝統工芸技術、先人が日常生活の中で伝えてきた知恵などを保存・継承をするための調査を推進するとともに、伝統工芸展や民俗芸能の祭典等の発表機会への参加促進や、後継者の育成、保存団体のネットワーク化を推進します。

#### ○古代吉備文化遺産の保存・活用

古代吉備の豊かな文化遺産を体感できるよう、文化遺産の特性や適切な保存に配慮しつつ、積極的な活用を行い、県民が歴史や文化に触れ、親しむ機会を充実します。そのため、県・市町村が連携して、主要な遺跡や建造物等の文化遺産の保存・活用を図ります。

さらに、地域の文化財保護団体との連携によるボランティアの育成・活用など、文化財保護活動の充実を図ります。

#### ○郷土の誇る先人顕彰の推進

様々な分野における郷土の先人の功績をたたえ次世代に伝えていくため、先人の功績の記録・顕彰、遺品・資料・作品の収集及び公開を推進します。

#### ○ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援

「日本の書道文化」など、後世に伝えていくべき無形文化を、ユネスコ無形文化遺産に登録する活動の支援に努めます。

## (2) 文化の力を活用した地域の活性化

---

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、民間団体、NPO、大学等と連携しながら、地域で芽吹く新たな創造活動の活性化に努め、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

(重点施策)

### ○地域固有の文化資源の掘り起こし

伝統文化、優れた景観、地域の歴史を素材とした文化活動などは、再評価や有効活用により、地域を特徴づけるシンボルとなります。

このような県内各地に存在する特色ある文化資源を幅広く掘り起こし、ブランド化を図り、地域づくりに生かすとともに、東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの素材として活用していきます。

### ○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化素材を生かした取組を行っている団体やNPO等を支援します。また、空き店舗や空き家、学校の空き教室や廃校施設等を活用したアーティストや地域の文化関係者などによる文化の拠点づくりの取組を促進するなど、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

### ○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、NPO、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアーティスト・イン・レジデンス<sup>※5</sup>を行い、今まで気づけなかった地域の魅力の再発見に繋げていきます。

### ○美しく魅力ある景観づくりの推進

地域に残る歴史的な建造物や魅力ある町並み、美しい自然、調和の取れた集落や都市の景観は、人々の情緒・感性を豊かにし、潤いと安らぎを人々に与えます。

このような地域が誇る風景や自然、地域の特色ある生活などの文化資源を活用した美しく魅力ある景観づくりを推進します。

---

※5 アーティスト・イン・レジデンス：アーティストを招聘し、滞在期間中に作品を制作してもらうこと、また、それらの活動を支援することをいいます。

### ○歴史・自然を生かした豊かな「暮らし文化」※6の振興

各地に伝わる祭り、行事、郷土料理など人々の生活により形作られてきた衣食住に関わる「暮らし文化」は、本県の自然、歴史、伝統に根ざした重要な資源であり、未来への継承に努めるとともに、その魅力を国内外へ発信していきます。

### ○国際的なアートイベントとの連携

国際的なアートイベントは、本県の文化シーンに新たな魅力を付け加え、国内外からの観光客の増加をもたらします。このため、アートイベントとの連携を十分に図るとともに、その効果が、県内に広く波及し、相乗効果が上がるよう取り組みます。

## **(3) 地域資源としての文化の積極的な活用**

地域の文化資源に内在する先人の英知や創造性などを活用して、観光産業・繊維産業をはじめ、文化財等の情報を効果的に発信し、文化を通じて地域の魅力を高めます。

(重点施策)

### ○繊維産業の振興

伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を生かし、技術開発や人材育成、産地ブランド化を総合的に推進し、生活文化であるファッションに大きく寄与している繊維産業を伝統分野から高度先端分野まで幅広く対応できる産業へ飛躍させる取組を進めます。

### ○観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域固有の文化資源を掘り起こし、新たな観光資源として積極的に活用することにより、魅力ある観光地づくりに努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光PRを活用した地域文化の情報発信を促進します。

---

※6 暮らし文化：瀬戸内海に面した岡山ならではのぼら寿司や、備中杜氏の技術に支えられた酒などの食文化、各地に伝わる特色ある伝統行事などをいいます。



### ○文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

豊かな歴史を象徴する文化財や歴史的建造物などの文化遺産を、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が親しむことができるよう公開・活用します。

また、有形・無形の文化資源を観光・産業振興等に活用するための取組を進めます。

### ○日本遺産認定の推進

岡山県の歴史的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー化した「日本遺産<sup>※7</sup>」に認定する取組を促進します。

また、その魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。

## 3 文化発信しながら交流を広げる岡山

### (1) 多様な文化プログラムの展開

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあります。国内外に岡山の文化の魅力を発信するとともに、その魅力を再認識し、さらに発展させる契機となるよう文化プログラムへの参画を促進します。

(重点施策)

#### ○オリンピック・パラリンピックに向けた多様な文化プログラムの展開

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多様な文化プログラムの展開を促進します。様々な主体が連携・参加・交流し、岡山の魅力を国内外に発信していきます。

#### ○次世代へ継承されるレガシーの実現

文化プログラムの実施を通じて、東京オリンピック・パラリンピック後にも継承されるレガシーを以下の4つのコンセプトを基に実現していきます。

- ・岡山における文化の再認識と継承・発展
- ・次世代育成と新たな文化の創造
- ・岡山における文化の世界への発信と国際交流
- ・あらゆる人の参加・交流と地域の活性化

※7 日本遺産：文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を総合的かつ一体として活用し、地域活性化を図ることを目的としています。

## **(2) 文化による連携・交流の促進**

---

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

(重点施策)

### **○文化ネットワークの形成**

様々な分野の芸術家や、文化団体、NPO、ボランティアなどの文化に関わる人々が活動できる環境をサポートするため、研修機会の充実を図るとともに、情報交換や交流を通じて文化活動の運営や企画を支える人材のネットワークづくりを推進します。

また、創造都市ネットワーク<sup>※8</sup>など全国的な団体とのつながりを活用し、先進事例の情報収集や、情報共有を行います。

### **○国内文化交流の促進**

世代や分野を超えた文化団体や人々の交流の広がりを通じて、県内外の文化交流や全国大会への参加を促進するとともに、文化関係の全国大会や中四国大会などの誘致を推進します。

### **○国際文化交流の促進**

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、NPO等が行う海外の芸術家によるアーティスト・イン・レジデンスの取組を支援します。

## **(3) 岡山からの文化発信**

---

国内外における岡山の認知度を高めるため、メディア等の効果的な活用や人的交流を通じて、伝統文化から現代文化まで、多様な文化の魅力の国内外へ向けた積極的な発信を推進します。

---

※8 創造都市ネットワーク：文化の創造性を生かした発展や再生の取組を目指す自治体や団体のネットワークをいいます。

(重点施策)

#### ○文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

美術品や文化財など様々な文化に関する情報について、デジタル技術を活用したアーカイブ化による記録・保存に取り組むとともに、インターネット等を活用した情報発信を推進します。

#### ○ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを効果的に活用し、本県の文化資源や文化プログラムなどを積極的に国内外に情報発信します。

#### ○おかやま独自の文化発信

本県の文化を積極的に発信する取組を通じ、県民に本県の魅力を再認識してもらうとともに、他県に在住している本県出身者の郷土愛を高め、岡山の文化の素晴らしさを共有できるよう努めます。

また、国内外における岡山の認知度を高め、県民が岡山の文化に愛着心と誇りが持てるような岡山ならではの文化発信に努めます。

## Ⅵ 文化振興のための体制づくり

### 1 文化行政推進体制の充実

文化の分野の広がりや文化振興の多様化を踏まえ、県の各部局の緊密な連携・協力により、文化の総合的なコーディネーターとしての役割を担えるよう、総合的な文化振興を推進するとともに、文化活動の調査・分析などの支援に努めます。

また、岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、芸術家・文化団体・NPO・企業・大学・市町村など本県の文化を担う多様な主体との連携を一層強化していきます。

さらに、東京オリンピック・パラリンピックに向け文化プログラムを展開し、そのレガシーを創出していくため、岡山県文化連盟内に設置している中間支援組織「おかやま文化芸術アソシエイツ」の充実、強化に取り組みます。

## 2 政策形成への民意の反映等

文化行政を推進する上で、県民の多様なニーズを把握することが重要であることから、文化の振興に関する施策形成や事業実施に際して、文化振興審議会の意見聴取、有識者等の積極的活用による県民の多様な意見の反映に努めます。

また、県全体の事業について選択と集中を図る中、文化振興の施策についても適切な評価を行い、支援の重点化と効率化を図る必要があることから、文化振興審議会の意見も聴きながら事業効果の把握に努め、各施策を評価し、事業実施に反映します。

## Ⅶ 文化振興ビジョンにおける成果指標

### 1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H39(2027)年度	備 考
文化施設利用者数	483,612人	530,000人	
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数			

#### (1) 将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
おかやまの文化財キッズページ年間アクセス数	854件 (2016年度)	1,800件 (2020年度)	【新規】 第2次岡山県教育振興基本計画
(説明)おかやまの文化財キッズページ年間アクセス数			
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	4,800人	
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数			
子どもみらい塾講師派遣回数	406回	530回	
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数			
優れた芸術を鑑賞した学校数	668校	1,300校	H23(2011)年度からの累計
(説明)県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累積数			
アウトリーチ活動実施回数	39回	43回	
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数			

#### (2) 県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数	—	400件	【新規】 目標値は累計
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数の累積数			
文化関係各種助成金の採択件数	31件	40件	
(説明)文化庁、日本芸術文化振興会、地域創造等の団体が募集した助成金事業に採択された件数			

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
県が実施するアートマネジメント講座修了者数	69人	200人	【新規】 H26(2014)年度からの累計
(説明)県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数			
県立美術館ボランティア数	89人	100人	
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数			
岡山県美術展覧会への応募点数	3,296点	3,300点	
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数			

### (3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
文化施設利用者数	483,612人	506,000人	
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数			
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.2% (2016年度)	38.0% (2020年度)	生き生きプラン指標
(説明)県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合			
「岡山文化情報」ホームページアクセス数	25,697件	34,000件	
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数			
県民文化祭参加者数	370,978人	408,000人	
(説明)おかやま県民文化祭への総参加者数			

### (4) 障害のある人の文化活動の推進

指 標 名	現況値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目標値 H34(2022)年度	備考
障害のある人のアート展への応募点数	—	250点	【新規】
(説明)岡山県主催の障害者アート展への応募点数			
beyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数	—	1,100件 (2020年度)	【新規】 目標値は累計
(説明)岡山県が認定するbeyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数の累積数			

## 2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H39(2027)年度	備 考
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数	69人	500人	【新規】 H26(2014)年度からの累計
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数			

### (1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
日本伝統工芸展への応募点数	116点	120点	
(説明)日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数			
登録文化財の登録件数	275件	310件	
(説明)登録文化財の登録件数			
犬養木堂記念館及び岡崎嘉平太記念館利用者数	25,772人	29,000人	【新規】
(説明)犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館の利用者数			

### (2) 文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数	—	2,000件 (2020年度)	【新規】 生き生きプラン指標 目標値は累計
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベント件数の累積数			
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	130団体	
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数			
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加アーティスト数	20人	25人	【新規】
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加アーティスト数			
地域の景観づくりに主体的に取り組む景観行政団体(市町村)数	8団体	10団体	
(説明)景観計画の策定等、地域独自の景観形成施策を実施する景観行政団体(市町村)数			
外国人旅行者宿泊者数	133,082人	300,000人 (2020年度)	【新規】 生き生きプラン指標
(説明)県が調査している外国人旅行者宿泊者数			

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
観光入込客数	1,433万人	1,500万人 (2020年)	生き生きプラン指標
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数			
後樂園の入園者数	744,039人	900,000人 (2020年度)	生き生きプラン指標
(説明)後樂園の入園者数			

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H39(2027)年度	備 考
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件 (2016年度)	432,000件	【新規】
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数			

(1) 多様な文化プログラムの展開

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数【再掲】	—	2,000件 (2020年度)	【新規】 生き生きプラン指標 目標値は累計
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベント件数の累積数			

(2) 文化による連携・交流の促進

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数	—	1,500人	【新規】 目標値は累計
(説明)おかやま文化芸術アソシエーツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ受講者数の累積数			
国民文化祭への派遣団体数	8団体	10団体	
(説明)国民文化祭への派遣団体数			
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加外国人アーティスト数	5人	7人	【新規】
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加外国人アーティスト数			



### (3)岡山からの文化発信

指 標 名	現 況 値 H24(2012)年度～ H28(2016)年度 平均	目 標 値 H34(2022)年度	備 考
「岡山文化情報」ホーム ページアクセス数【再掲】	25,697件	34,000件	
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数			
県立美術館フェイスブッ ク"いいね"の数	—	1,900件	【新規】 目標値は累計
(説明)県立美術館フェイスブック"いいね"の数の累積数			

※累積数を指標としている場合、現況値はH28(2016)年度現在の累積数を記載している。

# 平成29年度 岡山県文化振興審議会 配 付 資 料

日時 平成30年1月31日(水)

10時～11時30分

場所 ルネスホール ワークルーム

## 1 平成29年度県実施事業

### (1) おかやま生き生き文化プログラム推進事業

(ア) おかやま文化芸術アソシエイツ事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### (イ) 文化プロジェクト推進事業

①アーティスト滞在・交流事業の開催状況・・・・・・・・・・・・ 3

②芸術文化育成・支援事業の開催状況・・・・・・・・・・・・・・ 4

③「アートで地域づくり実践講座」の開催状況・・・・・・・・・・・・ 5

(2) 県立美術館事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

2 おかやま文化振興ビジョン成果指標実績・・・・・・・・・・・・・・ 9

3 岡山県文化振興審議会規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

4 平成30年度文化振興課重点事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

おokayama文化芸術アソシエイツ事業について

事業趣旨	県内の文化団体等の活動を支援するとともに、東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムへの参画を促進する。
事業概要	<p><b>おokayama文化プログラム・キックオフシンポジウム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日時 平成29年6月27日(火)</li> <li>・開催場所 岡山県天神山文化プラザ</li> <li>・テーマ 地域で文化を考える</li> <li>・出演者 朝倉由希氏(文化庁地域文化創生本部 総括・政策研究グループ研究官) 杉浦幹男氏(アーツカウンシル新潟プログラムディレクター) 大月ヒロ子氏(有限会社アイデア代表取締役・国立歴史民俗博物館客員准教授) 岡野英美氏(NPO法人ENNOVA OKAYAMA理事長) 藤井裕也氏(NPO法人山村エンタープライズ代表・総務省地域おこし協力隊)</li> <li>・参加者数 110名</li> </ul> <p><b>岡山県文化連盟内に「おokayama文化芸術アソシエイツ」を設置</b></p> <p>&lt;組織&gt;</p> <p>【プログラム・コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大月ヒロ子氏/有限会社アイデア代表取締役・国立歴史民俗博物館客員准教授</li> </ul> <p>【サポーティング・パートナー 3名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和田広子氏/(公財)福武教育文化振興財団</li> <li>・木下志穂氏/見るを楽しむ!アートナビ岡山(対話型鑑賞活動団体)</li> <li>・奥富紀子氏/(公財)岡山市スポーツ・文化振興財団</li> </ul> <p>&lt;業務内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの周知、参画の促進及びbeyond2020プログラムの認証・相談窓口</li> <li>・文化団体等の活動に対する助言、支援</li> <li>・県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業の実施</li> <li>・文化活動に係る研究会、勉強会、講演会などの実施</li> </ul> <p>&lt;実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化プログラム認証件数(平成29年12月28日現在) 東京2020応援文化オリンピアド・・・60件 beyond2020プログラム・・・123件</li> <li>・文化団体等の活動に対する助言、支援・・・30件</li> </ul> <p><b>「文化芸術交流実験室」(トークセッション&amp;ワークショップ)を実施</b></p> <p>&lt;趣旨&gt;</p> <p>文化と他分野との連携による新たな取組の提案や、ソーシャルインクルージョン※の視点も盛り込んだレクチャー&amp;ワークショップを定期的で開催する。文化の各分野はもとより、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流に文化の創造性を生かして、文化資源の掘り起こし、県内の人材や文化資源の領域横断的な出会いの場の創出・ネットワークの構築を目指す。</p> <p>※全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現に繋げるよう、社会の構成員として包み支え合うという理念</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年11月～平成30年3月まで、月1回開催</li> <li>・各回とも定員30名</li> </ul> <p>&lt;開催実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 11月25日(土) 11:00～16:00 「見えない岡山を見る」 講師：三宅航太郎(うかぶLLC共同代表)・蛇谷りえ(うかぶLLC共同代表) 場所：岡山県天神山文化プラザ 参加者：27名</li> </ul>

事業概要

- ・ 2回目 12月16日(土) 11:00~16:00  
「古道具類を生かす、回想法の魅力に迫る」  
講師：市橋芳則(北名古屋歴史民俗資料館/昭和日常博物館館長)  
村上岳(瀬戸内市民図書館主幹)・野田繭子(岡山県立博物館学芸員)  
場所：瀬戸内市民図書館もみわ広場  
参加者：31名
- ・ 3回目 1月8日(月・祝) 11:00~16:00  
「文化と教育と福祉の刺激的な関係」  
講師：平田オリザ(劇作家・演出家)  
菅原直樹(奈義町アート・デザイン・ディレクター)  
場所：奈義町伝統文化等研修施設  
参加者：35名

<今後の開催予定>

- ・ 4回目 2月17日(土) 11:00~16:00  
「伝統芸能から見る未来」  
講師：大澤寅雄(NPO法人アートNPOリンク理事)  
小岩秀太郎(公益社団法人全日本郷土芸能協会)  
高橋亜弓(仔鹿ネット)  
場所：旧中国銀行倉敷本店出張所
- ・ 5回目 3月24日(土) 11:00~16:00  
「食でつながる地域」  
講師：姜侖秀(真庭市地域おこし協力隊、株式会社ふの代表)  
関洋平(瀬戸内市立美術館学芸員)  
岡本康治(まちづくり市民応援団まにワッショイ代表)  
場所：旧遷番尋常小学校

事業実施の様子



キックオフシンポジウム 6月27日  
「地域で文化を考える」



文化芸術交流実験室1回目 11月25日  
「見えない岡山を見る」



文化芸術交流実験室2回目 12月16日  
「古道具類を生かす、回想法の魅力に迫る」



文化芸術交流実験室3回目 1月8日  
「文化と教育と福祉の刺激的な関係」

## アーティスト滞在・交流事業の開催状況

事業趣旨	地域住民や地元アーティスト、NPO、市町村等によるサポートグループが主体となり、地域資源を活用したアーティストの短期滞在制作（アーティスト・イン・レジデンス=AIR）を実施することで、文化による地域づくりを促進する。
事業概要	<p><b>笠岡諸島アートブリッジ2017</b>      入場者 1,200名</p> <p>笠岡諸島の3つの島で、それぞれの島の特質を生かした滞在制作を実施した。</p> <p><b>白石島</b> 開催期間：8月11日～17日      作家：松岡美江など7名 旧庄屋の屋敷「松浦邸」や島に点在する空き家などを会場に、地域に素材や題材を求めて制作した作品を展示。また、住民との協働によるパフォーマンスを上演。</p> <p><b>六島</b> 開催期間：8月11日      作家：三友周太、金子雄生、米山力 島の各所に光を用いた表現の「カメラオブスクラ」を設置するとともに、ゲストハウス「島小屋」で島の子どもたちとの協働による音楽・映像作品を公演。また、廃屋を利用して写真館とした作品を展示。</p> <p><b>高島</b> 開催期間：8月11日      作家：李潔欣、杉原信幸 豊かな景観や歴史を生かし、自然石を背景にした創作ダンスを公演するとともに、島に古代存在した天文台「天目岩」を貝殻で再現した造形とパフォーマンスなどを披露。</p> <p><b>美咲芸術世界2017</b>      入場者 17,118名</p> <p>パリの共同アトリエ「59Rivoli」で活躍したアーティスト3名を招へいた滞在制作を中心に、国内外の20名が、美咲町の旧大塚和小学校など町内各所で制作活動を行った。地域の素材に目を向け、オープニングイベントでは地元につながる昔話を題材にした舞台公演やマルシェを開催するほか、公開制作、ワークショップ、アーティストトークなどを実施するなど、地域との交流を図って実施した。</p> <p>開催期間：9月23日～10月29日 海外招へい作家：ブルノ・デュモン(フランス)、ジャミラ・マラニョン(アルゼンチン)、アミド・ドリス(ブルキナファソ)</p>

### 「笠岡諸島アートブリッジ2017」



展示風景：白石島



影絵公演：白石島



展示風景：六島



公演風景：六島



パフォーマンス公演：高島



展示風景：高島

「美咲芸術世界 2017」



オープニングイベント：舞台公演



交流事業：「文化の時間」



展示風景：大埴和西棚田



展示風景：「夢のタマゴ」内部



滞在制作：旧大埴和小学校



ワークショップ：旧打穴小学校

芸術文化育成・支援事業の開催状況

事業趣旨	次世代を担う芸術家を育成するとともに、文化芸術による地域の活性化を図るため、岡山県にゆかりのある美術作家（本年度は「I氏賞」受賞作家）に対して県内の美術文化施設での発表の場を提供するなど、創作活動を支援する。
事業概要	<p><b>光延由香利展</b>      入場者 284 名</p> <p>第 6 回「I 氏賞」奨励賞作家である光延由香利の個展を真庭市で開催した。受賞時の絵画の制作から、近年の糸や布を使った繊細な作品へと作風を大きく変貌させている作家の近作、新作を紹介した。</p> <p>会場：勝山文化往来館ひしお          会期：11 月 19 日～12 月 3 日          付帯事業 ・オープニングイベント(トーク&amp;交流会) 11 月 19 日          ・ワークショップ「コイリングで作るブローチ」 11 月 25 日</p> <p><b>杉浦慶侘作品展「のしかた」</b>      ※実施予定</p> <p>第 2 回「I 氏賞」大賞作家である杉浦慶侘の受賞後の歩みを振り返る展覧会を勝央町で開催する。居住する県北の身近な場所や自然を題材にした写真作品を制作してきたが、鹿獺をテーマとして取り上げた新作の映像作品も出品予定。</p> <p>会場：勝央美術文学館          会期：平成 30 年 2 月 10 日～3 月 11 日          付帯事業 ・「植月奏ライブパフォーマンス」 2 月 10 日          ・「トークセッション」 2 月 12 日</p>

「光延由香利展」



会場風景



オープニングイベント



ワークショップ

「アートで地域づくり実践講座」の開催状況

事業趣旨	地域の資源を活用し、地域のイメージアップとにぎわい創出につながる文化芸術イベントの企画やコーディネートができる人材を育成し、文化を核とした地域づくりを推進する。
フィールドワーク場所	井原市井原町 下町商店街付近
事業概要	<p>《講座講師》花田洋通（中国デザイン専門校教師）、清水明人（井原マイレールプラザ会長）  《講座受講生》15名</p> <p>○講座の開催（6月25日（日）～2月18日（日） 全22回予定（清掃・打合せ等除く）  企画の進め方や実際のアートイベントの運営、イベントの広報戦略、効果的な広報物の作成方法などを常勤講師、外部講師から学ぶ座学講座に加え、地域の資源や歴史・文化を生かしながら、受講生自らが企画・準備から開催・運営までを実際に経験するフィールドワークとして文化イベント（実証イベント）を行った。  実証イベント等の経験を確かなものとするため、振り返りを行う。</p> <p>○実証イベントの開催（1月13日（土）～1月14日（日）  地域の資源を活用し、受講生自らが企画、準備から開催・運営までを行う実証イベント『いばらアートループ商店街「糸〜いとへん〜」』を開催した。</p> <p>【開催場所】 井原市井原町 下町商店街付近  【タイトル】 いばらアートループ商店街「糸〜いとへん〜」  【参加アーティスト】 18名（団体）  【概要】 グラフィティアート、絵画、インスタレーション、書、イラスト・映像、ダンス（パフォーマンス、うらじゃ）、落語、ワークショップ（ストリングアート、表装ワークショップ等）  【来場者数】 約2,600人（前年度約2,500名）</p>

講座（座学、フィールドワーク）6月25日（日）～2月18日（日）全22回（清掃・打合せ除く）



オリエンテーリング



まち歩きの様子



受講生は講義、ディスカッションを通してアートマネジメントを学ぶ

実証イベント 1月13日(土)~1月14日(日)



オープニングイベント



書



グラフィティアート



インスタレーション



帽子アート



イラスト・映像



絵画



ダンスパフォーマンス



落語



ワークショップ(istringアート)



ワークショップ(表装フレームづくり)



うらじゃダンスパフォーマンス



## 県立美術館事業について

国内外の優れた芸術活動を紹介する展覧会や美術館講座の開催等、県立美術館の機能を最大限に活用した事業を展開した。

### 1 展覧会事業

#### (1) 平成29年度特別展等

展覧会名	期間	入館者数(人)
THE 世界名作劇場展	3/17～5/7	25,358
日本工芸会中国支部創立60周年記念 「60年のあゆみ」展	5/24～6/25	3,186
傑作 浮世絵 揃い踏みー平木コレクション	7/14～8/27	27,028
第68回岡山県美術展覧会	9/6～9/17	6,705
慈愛の人 良寛ーその生涯と書	9/29～11/5	6,867
第64回日本伝統工芸展岡山展	11/16～12/3	5,428

※H29.12月11日～H30.4月19日まで施設メンテナンスのため休館

#### (2) 平成30年度特別展

展覧会名(仮称)	期間
岡山県立美術館開館30周年記念展	I期4/20～5/27
「県美コネクション」《ひと》《もの》《こと》	II期5/30～7/1
ポーラ美術館コレクション	7/6～8/26
生きてゐる山水	8/31～9/30
創作版画の名品	10/5～11/4
第69回岡山県美術展覧会	9/5～9/16
第65回日本伝統工芸展岡山展	11/15～12/2
秀桜基金留学賞の10年	1/18～2/24
山陽新聞創刊140年ー日本絵画の200年	3/15～4/14

### 2 次世代ミュージアムファン確保事業

若い世代の人たちに「美術館とのよき出会い」や「生涯を通じ芸術に触れるきっかけ」を積極的に提供することで、美術館を身近に感じ、生涯にわたって美術館に足を運ぶ環境づくりを目指すもの。

#### ○グッド・スタート・ミュージアム事業

- ・アート・トラベリング・トランク等の美術館教育素材を活用した美術館学習プログラムの実施
- ・県立美術館を利用する学校へのバス代サポート



#### ○ キャンパスメンバーズ制度の導入

大学生等に気軽に美術館へ足を運んでもらうため、既に県で取り組んでいた「岡山後楽園等キャンパスメンバーズ制度」に、平成27年1月から岡山県立美術館も参加した。大学や短期大学、専修学校等に所定の会費負担を依頼し、メンバーになった学校（現在23校）に在席している学生に展覧会（特別展を除く）を無料で鑑賞してもらう制度である。

〔大学生等来館実績〕

平成29年	847人（うち制度利用 512人）
平成28年	736人（うち制度利用 387人）
平成27年	627人（うち制度利用 403人）

### 3 「おとなり美術館」事業

県立美術館と市立オリエント美術館が連携し、定期的に展覧会情報等の交換を行いながら、相互の情報発信と利用促進を目指す取組を平成27年度から進めている。

- ・ポスターやチラシ等で相互の展覧会をPRするコーナーの設置
- ・所蔵品を1点ずつ交換して紹介する「サテライト展示」
- ・入館チケットの半券を相手館に提示すると団体料金で鑑賞できる制度の導入
- ・美術館ボランティアの相互勉強会の開催 等



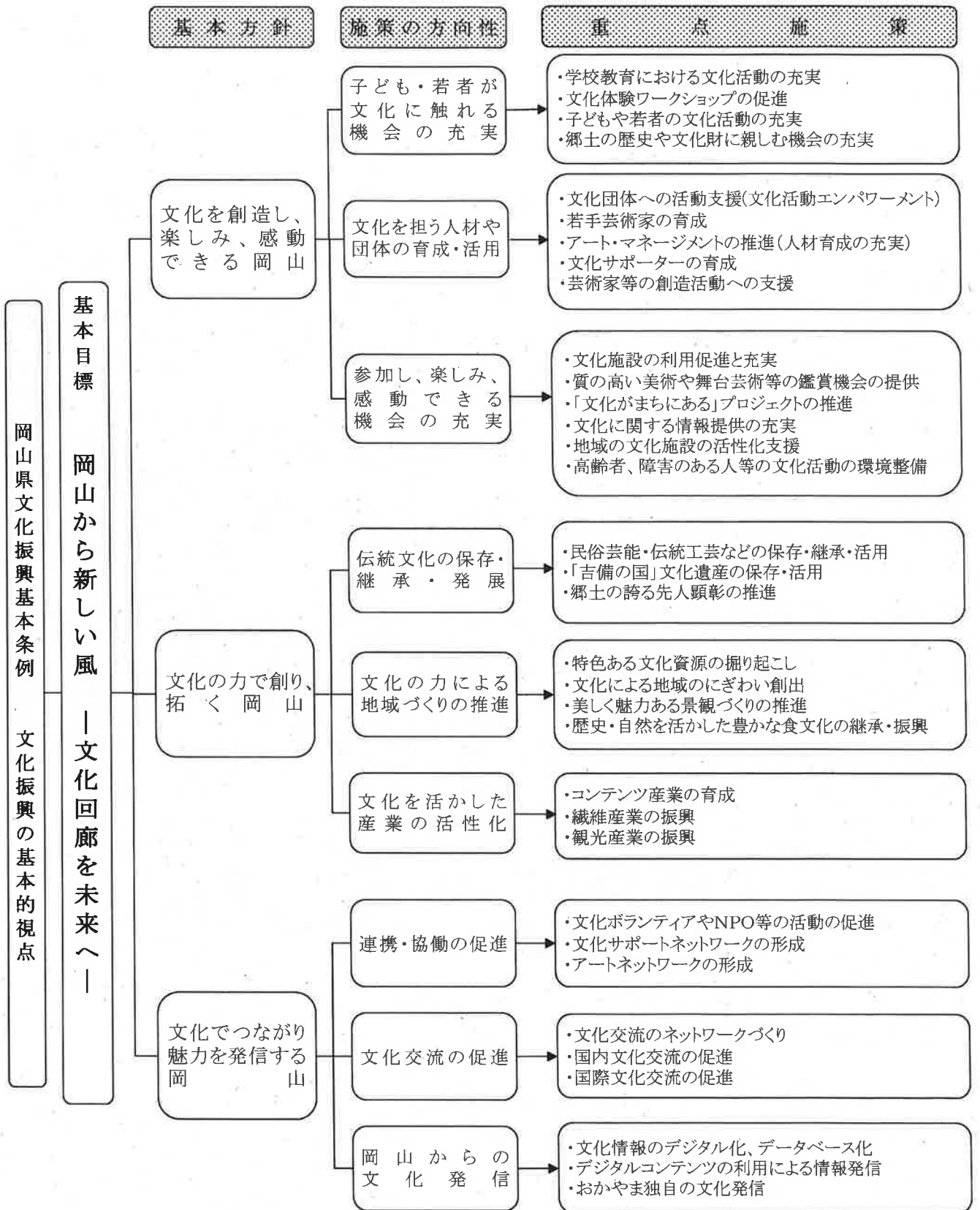
### 4 その他

#### ○岡山県博物館協議会

平成3年に県内の博物館・美術館相互の発展を目的に結成された。県内会員83施設（H29）で組織している。（事務局：県立美術館）

- ・総会開催（記念講演会等）
- ・研修会 2回開催
- ・会報「岡山の博物館」2回発行
- ・リーフレット「おかやま博物館なび」改訂版 発行

# おかやま文化振興ビジョン 施策体系



- おかやま文化振興ビジョンとは・・・
- 岡山県文化振興基本条例に基づく、文化振興に関する基本計画として平成20年に策定
  - 取組期間は10年間(平成20年度～平成29年度)
  - 平成24年度に中間見直しを行い改訂(成果指標(数値目標)の導入)

# 文化振興ビジョンにおける成果指標の実績

## 1 文化を創造し、楽しみ、感動できる岡山

### (1) 子ども・若者が文化に触れる機会の充実

指 標 名	現 況 値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
学校行事で県立美術館を訪れた人数	4,104人 (H23年度)	4,400人	5,848人	3,518人	2,734人	2,934人	2,840人	2,310人
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数								
ワークショップ参加者数	908人 (H21～H23平均)	1,000人	2,632人	2,318人	2,592人	1,984人	2,607人	1,434人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホールが開催したワークショップに参加した人数								
アウトリーチ活動実施回数	28回 (H21～H23平均)	30回	45回	39回	36回	39回	36回	17回
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数								

### (2) 文化を担う人材や団体の育成・活用

指 標 名	現 況 値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
おかやま子どもみらい塾講師派遣回数	338回 (H21～H23平均)	380回	341回	420回	464回	476回	329回	383回
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数								
文化関係各種助成金の採択件数	22件 (H23年度)	25件	21件	34件	27件	34件	38件	23件
(説明)文化庁、日本芸術文化振興会、地域創造等の団体が募集した助成金事業に採択された件数								
文化施設担当者研修会への参加者数	143人 (H23年度)	150人	164人	301人	160人	149人	981人	105人
(説明)岡山県博物館協議会主催の研修会へ参加した人数								
岡山県美術展覧会への応募点数	3,384点 (H23年度)	3,500点	3,384点	3,450点	3,254点	3,279点	3,115点	2,972点
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻、デザイン)の点数								
岡山県文学選奨への応募作品数	392件 (H24年度)	500件	392件	390件	428件	491件	414件	442件
(説明)岡山県文学選奨に応募のあった作品(小説、随筆、現代詩、短歌、俳句、川柳、童話)の数								

(3) 参加し、楽しみ、感動できる機会の充実

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
文化施設利用者数	531,106人 (H23年度)	700,000人	527,721人	477,784人	455,719人	472,516人	475,715人	365,232人
(説明) 県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数								
県立美術館の講座等への参加者数	1,646人 (H23年度)	2,500人	3,439人	3,418人	5,117人	3,343人	3,214人	3,078人
(説明) 県立美術館が実施する美術館講座、美術のタベ、講演会、フローレクチャー等への参加者数								
優れた芸術を鑑賞した学校数	85校 (H23年度)	475校	179校	292校	421校	549校	670校	794校
(説明) 県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累積数								
県民文化祭参加者数	252,914人 (H23年度)	350,000人	347,757人	358,116人	381,729人	417,509人	349,779人	168,655人
(説明) おかやま県民文化祭への総参加者数								
「おかやま文化の駅」ホームページアクセス数	27,742件 (H23年度)	35,000件	20,572件	14,506件	23,217件	25,692件	44,497件	61,416件
(説明) 県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「おかやま文化の駅」へのアクセス数								

2 文化の力で創り、拓く岡山

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
日本伝統工芸展への応募点数	146点 (H23年度)	150点	130件	133点	112点	110点	95点	93点
(説明) 日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数								
登録文化財の登録件数	251件 (H23年度)	300件	252件	268件	274件	274件	275件	295件
(説明) 登録文化財の登録件数								
後楽園の入園者数	664,503人 (H23年度)	765,000人	661,175人	659,121人	700,758人	817,260人	881,881人	701,619人
(説明) 後楽園の入園者数								

(2) 文化の力による地域づくりの推進

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
おかやま県民文化祭地域フェスティバル参加者数	33,073人 (H23年度)	40,000人	90,280人	257,400人	259,205人	284,367人	244,881人	60,293人
(説明) おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)への参加者数								
地域の景観づくりに主体的に取り組む景観行政団体(市町村)数	6団体 (H23年度)	10団体	6団体	7団体	7団体	8団体	8団体	8団体
(説明) 景観計画の策定等、地域独自の景観形成施策を実施する景観行政団体(市町村)数								
地産地消協力店の登録店舗数	262店舗 (H23年度)	290店舗	288店舗	304店舗	330店舗	342店舗	356店舗	375店舗
(説明) 県産食材を積極的に提供する県内小売店や飲食店を「地産地消協力店」として県が登録した店舗数								

(3)文化を活かした産業の活性化

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
IT・コンテンツ人材育成研修等への参加者数	36人 (H23年度)	40人	94人	38人	36人	25人	16人	32人
(説明)県の委託により実施したIT・コンテンツ人材育成関連の研修に参加した人数								
観光客入り込み数	1,459万人 (H23年暦年)	1,500万人	1,322万人 (H24暦年)	1,232万人 (H25暦年)	1,422万人 (H26暦年)	1,449万人 (H27暦年)	1,740万人 (H28暦年)	—
(説明)県内観光施設等への観光客入り込み数								

3 文化でつながり魅力を発信する岡山

(1)連携・協働の推進

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
おかやま県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	34団体 (H23年度)	40団体	43団体	29団体	82団体	147団体	288団体	397団体
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数								
おかやま子どもみらい塾講師派遣回数	338回 (H21～H23平均)	380回	341回	420回	464回	476回	329回	383回
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数								
「おかやま文化の駅」ホームページアクセス数	27,742件 (H23年度)	35,000件	20,572件	14,506件	23,217件	25,692件	44,497件	61,416件
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「おかやま文化の駅」へのアクセス数								
県立美術館ボランティア数	81人 (H24年度)	85人	81人	80人	92人	97人	96人	95人
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数								

(2)文化交流の促進

指 標 名	現況値 (時点)	目標値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
国民文化祭への派遣団体数	18団体 (H24年度)	20団体	18団体	7団体	8団体	11団体	7団体	3団体
(説明)国民文化祭への派遣団体数								
国際文化交流事業に参加した生徒数	— (H23年度)	900人	162人	162人	162人	261人	261人	408人
(説明)国際文化交流事業(韓国・中国)に参加した高校生の累積数								

(3)岡山からの文化発信

指 標 名	現 況 値 (時 点)	目 標 値 (H29年度)	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	直近の実績値 (H29.12末)
普段の生活の中で、 芸術・文化、スポー ツ等を実践したり、 観て楽しめる地域に なっていると感じる 人の割合	25.6%  (H23年度)	35%	31.1%	31.3%	28.5%	29.1%	30.2%	30.6%
(説明)県民満足度調査普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっていると感じる人の割合								
「おかやま文化の 駅」ホームページア クセス数	27,742件  (H23年度)	35,000件	20,572件	14,506件	23,217件	25,692件	44,497件	61,416件
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「おかやま文化の駅」へのアクセス数								
内田百閒文学賞へ の応募作品数	340件  (H24年度)	350件 (H28年度)	340件	—	306件	—	358件	—
(説明)内田百閒文学賞に応募のあった作品(随筆、短編小説)の数								
ラジオ番組による文 化情報等の発信回 数	—  (H23年度)	100回	26回	52回	78回	事業終了	—	—
(説明)県内の文化情報を定期的なラジオ番組として情報発信した回数								

# 岡山県文化振興審議会規則

平成十八年三月二十四日  
岡山県規則第五十一号

(趣旨)

第一条 この規則は、岡山県附属機関条例(昭和二十七年岡山県条例第九十二号)第四条の規定により、岡山県文化振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第二条 審議会は、次の事項を所掌する。

- 一 岡山県文化振興基本条例(平成十八年岡山県条例第十五号。以下「文化振興基本条例」という。)第八条の規定により知事から諮問された事項に関する調査審議及び意見の具申
- 二 その他文化振興基本条例の施行に関する意見の具申

(組織)

第三条 審議会は、委員二十名以内で組織する。

2 委員は、学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

(委員の任期)

第四条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、任期満了後であっても、新たに委員が任命されるまでは、その職務を行うものとする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第五条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第六条 審議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第七条 審議会は、その所掌事項の一部を分掌させるため、専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の意見の陳述)

第八条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に審議会の会議に出席して意見を述べさせ、又は説明させることができる。

(庶務)

第九条 審議会の庶務は、環境文化部文化振興課において処理する。

(その他)

第十条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則(平成二二年規則第二七号)抄

(施行期日)

1 この規則は、平成二十二年四月一日から施行する。



# 重点事業調書

担当部局・課名		環境文化部文化振興課（土木部都市計画課）					
新生き生きプラン	重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造					
	戦略的方針	8 生きがい・元気づくり支援プログラム					
	施策	8 推進文化創造活動の振興					
総合戦略	基本目標	4 地域の活力を維持する					
	対策	4 地域の持続的発展のための活力の維持					
	政策パッケージ	4-① 地域社会の活性化					
重点事業の名称		県立美術館魅力UP事業					
終期設定(年度)	32	予算区分	一般	事項名	県立美術館事業費		
現状・課題・根拠	<p>・県立美術館の入館者数は、近時では平成21年度をピークに減少が続き、児童・生徒・学生の来館も少ない。</p> <p>・県立美術館が開館30周年を迎える中で、郷土ゆかりの芸術家の優れた作品を収集・展示している常設展をはじめ県立美術館をより知ってもらうため、美術館の魅力の発信や県民・観光客への広報の充実、若い世代への来館を促進する取組が必要である。</p>						
事業の内容	<p>1 <b>新規</b> 県立美術館魅力UP事業 《7,011千円》</p> <p>県立美術館が県民や観光客にとって、気軽に行ってみたい場所となり、入館者の増につながるよう、積極的な情報提供や広報、きめ細かいサービスの提供等により、美術館自体の魅力向上を図る。</p> <p>(1) 「岡山の美術」(常設展) 魅力強化事業 《1,039千円》</p> <p>郷土ゆかりの芸術家の優れた作品を紹介する「岡山の美術」(常設展)について、多くの県民に美術館に足を運んで知ってもらい、郷土に対する愛着と誇りをもってもらうため、現在特別企画として行っている『岡山の作家☆再発見』シリーズに加え、当館所蔵作品に、他館から開催テーマに沿った作品を借りて展示する「岡山の美術∞プラスワン(仮称)」を開催するなど、人を呼べる企画やテーマを検討する。</p> <p>(2) 美術館魅力発信事業 《3,952千円》</p> <p>県立美術館で実施する常設展、特別展についての情報発信を強化するため、積極的なメディアへの情報提供や旅行会社への企画提案、子どもウェルカムデー等の設定やキャンパスメンバーの来館促進など、新たな企画を行う県立美術館魅力発信スタッフを配置し、入館者増に向けた取組を行う。</p> <p>また、最近の情報収集・情報発信は、スマートフォンの役割が大きいことから、県立美術館のホームページをスマートフォン対応とするとともに、一部について外国語で表示する。</p> <p>(3) 美術館利便性向上事業 《2,020千円》</p> <p>いままで美術館を訪れるのを躊躇していた人に美術館を楽しんでもらうため、「託児サービスの日」や「手話付きフロアレクチャーの日」を設ける。また、SNSでの情報発信ができる場所を提供するため、美術館の一定の区域を撮影可とするとともに、情報発信のポイントとなる小道具やパネル等を提供する。</p> <p>また、外国人観光客をはじめ、多くの観光客や県民が訪れる施設である岡山後楽園のイベントに合わせた開館時間の延長や、展覧会情報を提供する案内看板の設置等により、後楽園来園者の県立美術館への誘導を図る。</p> <p>さらに、県立美術館を訪れる外国人の利便性を図るとともに、日本文化に対する理解を深めてもらうため、展覧会に関する外国語版のチラシやリーフレットの作成、作品等に関する英語のキャプションの作成を行う。</p>						
事業の意図・効果等	<p>・県立美術館が県民や観光客にとって、気軽に行ってみたい場所となるとともに、積極的な情報提供、きめ細かいサービスの提供、美術館自体の魅力向上により、入館者増につながる。</p> <p>・県立美術館が将来にわたり、引き続き芸術文化の拠点であるために必要となる、若い世代の来館を促進することができる。</p>						
目標設定	事業	生き生き指標、重要業績評価指標(KPI)等			現状値	目標値	
	1(1)～(3)	美術館の入館者数			104,963人(H28)	120,000人(H32)	
見積り	事業費の内訳	区分	H29 予算額	H30 予算要求額	H31 見込額	H32 見込額	H33 以降見込額
		事業費(単位:千円)		7,011	6,011	6,011	
		国庫起債					
		その他特定財源 一般財源		7,011	6,011	6,011	

# 県立美術館魅力UP事業

目標：県立美術館が県民にとって芸術文化に親しむ拠点になるとともに、多くの観光客が訪れる新たな観光資源となることを目指す。



## 目標達成に向け、魅力UP事業を展開

### 常設展の魅力向上

- ◆「岡山の美術」(常設展)魅力強化事業
  - ・『岡山の作家☆再発見』シリーズに加え、「岡山の美術∞プラスワン(仮称)」を開催
  - ・人を呼べる企画やテーマの検討



### 発信力の強化

- ◆美術館魅力発信事業
  - ・既存の発想にとらわれない企画・提案、メディアへの情報提供や旅行会社への企画提案 【企画提案】
  - ・子どもウェルカムデーやキャンパスメンバー等の来館促進、美術館HPのリニューアル 【来館促進】



魅力発信スタッフの配置

### 利便性の向上

- ◆美術館利便性向上事業
  - ・「託児サービスの日」等の設定  
託児サービスや手話付きフロアレクチャー
  - ・後楽園と連携した集客
  - ・外国語表記の強化  
外国語版のチラシ、リーフレットの作成等



県立美術館の入館者の増加、活性化

